

種を播く

岡松

種を播く

岡松慶久

種を播く

初 刊——一九九一年六月三十日

再 版——一九九二年三月三十日

著 者——岡松慶久

604 京都市右京区山越巽町十一—十一

発行者——岡松慶久自伝刊行会

高木太郎

装 本——榊 仲 進

印 刷——ニューカラー写真印刷(株)

© Yoshinisa Okamatsu, 1991.

Printed in Japan

種を播く

岡松慶久

口絵——アルバムから……………4

大正二年——昭和九年（一九三三—三四年）……………17

生い立ち、幼年の頃……………18

父のことと私の精神生活の根っこ……………20

母、祖父母……………26

小学校・中学校の頃……………29

専門学校で……………35

振り返って……………37

英語への憧れ……………40

スキーのこと……………43

初めて海外へ……………52

在学三年間と尊敬する先生……………53

昭和十年——昭和二十年（一九三五—四五年）……………61

社会人となる……………62

女工哀史の実態をつぶさに見た……………66

ついでに余談……………69

山村の生活……………70

朝鮮北部の清津工場へ転勤……………74

上海ビール会社へ赴任……………76

敗戦……………79

運命……………80

敗戦後の上海で、收容所の生活……………81

敗戦までの上海、ビール会社のことなど……………83

戦時中、会社での体験……………87

外国語のことと関連して……………92

敗戦後の上海で考えたこと、	95
白系ロシア人のことなど	98
国民性と様々な初めての体験	105
昭和二十一年（一九四六年）以降	106
日本へ引き揚げる	108
回想―引き揚げ船の中で	110
本社の渉外課勤務	112
回想―中国人との交流	114
意欲の持続ということ、私の考え方	118
社会への還元、奉仕の精神	122
岡松家へ入ってから	131
失敗談、銀行との付き合い	135
昭和五十一年（一九七六年）以降	136
種を播く	

今は出発の準備期間	143
「本」は民間外交の主役	147
試行錯誤を重ねながら	149
余談	151
「本」の寄贈の概略	152
ドゥーイング ビジネス イン ジャパン (Doing Business in Japan) と	160
比較法研究センター	161
寄贈先リスト	182
実父の死について	185
選んだ道	188
抱負	190
あとがきにかえて	193
感動の人	高木太郎



大覚寺大沢池の池畔、満開の桜が水面に映え、背景の嵐山の遠桜と呼応して花の饗宴を繰り広げる。(1990年4月)

掲載の写真は、著者が四季を通じて散策の折々に撮影したものです。



大覚寺大沢池付近の新緑の道。秋には紅葉が一際美しい。毎朝の私の散歩道であり四季折々の趣が季節感を満喫させてくれる。



嵐山の渡月橋上流から眺めた日の出の刻。流れに砕ける光のきらめきに崇高な感動を覚えた。(1990年夏)



早朝のもやの中に鳥たちはそれぞれの表情で佇む。そばにいる私は全く無視されて。遠景との対照が印象的だった。(広沢池の晩秋)



洛西、愛宕山の夕景。前景の稜線は宇
多野ユースホテルの山。(1966年秋)



雪の朝、たっぷりと雪を冠った楓樹が紅葉の美しさとはまた異なった趣を見せている。(右京区宇多野辺り)



嵐山の嶺々を背景に紅梅の花に積もった雪が美しい。右の桜の枝の上部に野鳩が止まっていた。(右京区宇多野)



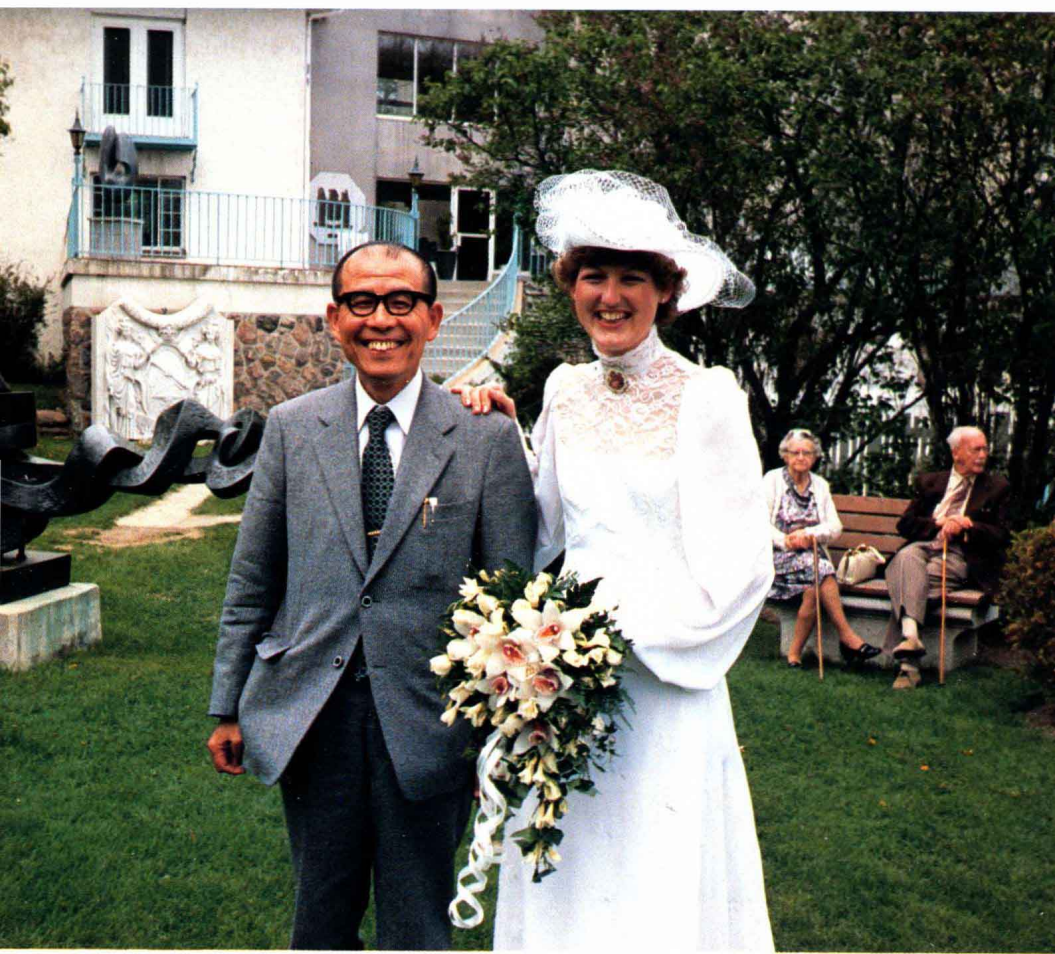
高尾の神護寺金堂を背景に、カナダのトロント大学総長ジェイムス・ハム氏夫妻と私。夫妻は同寺のお茶室で宿泊された。(1981年秋)



カナダのトロント大学アジア語科の日本語勉学者を対象とする岡松奨学基金設置に対して、同大学総長ジェイムス・ハム教授より贈られた感謝の楯。木製台に金属板製。上部のマークは校章。(1982年)



カナダのU.B.C.大学総長ダグラス・ケニー教授と総長室で面談。翌日の卒業式にはケニー氏の配慮により式服一切借用し教授の資格で臨席した。(1982年5月22日)



カナダのトロント市郊外のギルト・インで、式を終えた花嫁花婿に出逢った。記念にこの美しい花嫁と写真を撮りたいとの私の希望が快諾された。なんと私の嬉しそうな顔！（1982年5月）



ドイツのミュンヘン大学法学部教授リース氏のご子息、ロベルト・リース君と私。この写真を引伸してご両親に贈り大変喜んで頂いた。
(1985年1月)